

項目	説明	
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	ハザードファンクション法を用いた胃癌術後のサーベイランス戦略
	研究対象者	胃癌と診断された患者さんのうち、2000年1月から2018年12月の間に神奈川県立がんセンターで胃切除治療を受けられた方
	研究目的	胃癌術後再発は2年以内に多いとされるが、至適な術後サーベイランスの間隔については、国内外のガイドラインにおいてもエビデンスに乏しい記載しかありません。当院における胃癌術後患者の臨床病理学因子と予後を後方視的に解析し、病期毎の至適サーベイランスについて検証します。
	研究方法	当院における胃癌術後患者 3500 症例の臨床病理学因子と予後を後方視的にハザードファンクション法を用いて解析し、病期毎の至適サーベイランスについて検証します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西暦 2024 年 1 月 5 日 ~ 西暦 2024 年 12 月 1 日
	利用又は提供を開始する時期	[X]総長が研究実施を許可した日 [ ]西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	[ ]試料:	[ ]血漿、[ ]血清、[ ]全血、[ ]末梢血から抽出した DNA、 [ ]病理検体(具体的に記載: _____)、 [ ]尿、[ ]糞便、[ ]唾液、[ ]胸水、[ ]腹水、[ ]脳脊髄液、 [ ]毛髪、[ ]その他(具体的に記載: _____)
	[X]情報:	[X]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[ ]年齢、[ ]生年月日、[ ]性別、[ ]既往歴、[ ]併存疾患、[X]外来日・入院日・退院日、[X]臨床検査値、[ ]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[X]臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[ ]ゲノムデータ、[ ]看護記録、[ ]その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	消化器外科・兼松恭平
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし

	外国へ提供する場合	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター消化器外科・兼松恭平・045-520-2222 利用停止のお申し出は2024年3月31日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります